

副専攻制度

■社会学部副専攻

■サイエンスコミュニケーター養成副専攻

社会学部副専攻制度について

1. 副専攻制度とは

社会学部では、社会のさまざまな現象について、幅広く学びたいという皆さんの意欲に応えるため、また、柔軟な思考や複眼的なものの捉え方を身に付けることを奨励するために副専攻制度を導入しています。

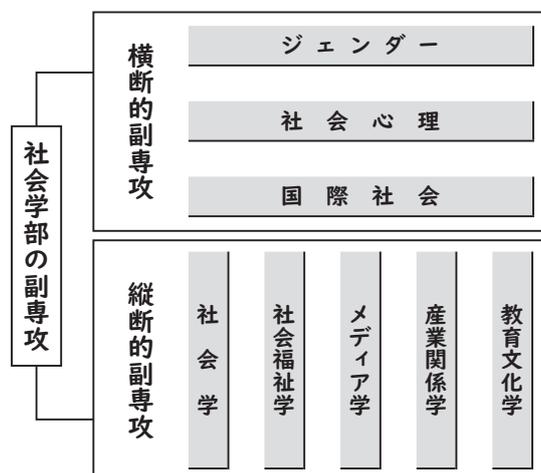
あなた自身の興味関心に応じて、専攻している所属学科の学問領域以外に、もうひとつ副専攻科目群を選択して、あなたの学問領域の幅を広げるとともに、あなた独自の学びの方法をカスタマイズするための支援制度です。

副専攻は「横」と「縦」の2つに分類されています。「横」の副専攻とは、「ジェンダー」「社会心理」「国際社会」という副専攻で、社会学部の5学科に設置されている上記のいずれかのテーマを扱った科目を中心に、他学部設置の科目も含めて幅広く履修する方法で、横断的副専攻、略して「横の副専攻」と呼ばれます。

これに対してもうひとつの「縦」の副専攻とは、学部内の他学科主要科目を並行して受講する副専攻です。自分の所属する学科以外の4つの学科、たとえば、社会学科に所属する場合には社会福祉学、メディア学、産業関係学、教育文化学のいずれかを副専攻として選択することが可能です。こちらは縦断的副専攻、略して「縦の副専攻」と呼ばれます。

いずれの場合も、単にシラバスで見つけた気になるトピックだけを手がかりに科目を履修するのではなく、現代社会で重要な問題となりやすいテーマについて、少し腰を落ち着けて、系統的に計画的に主専攻以外の学問領域の科目を履修することを支援する制度です。副専攻を修了した場合は、卒業時に修了証明が発行されます。

以下では、各副専攻の「学習のねらい」が記述されています。横の副専攻3つと縦の副専攻4つ（所属学科と同一の副専攻は選択できません）の中から、あなた自身の興味関心にあう副専攻を選択して、自らの学習を系統的に広げてみませんか？



2. 横断的（ヨコの）副専攻

2-1. 「ジェンダー」副専攻

ジェンダー（gender）とは、生物学的な性差（sex）に対して社会的、文化的な性、いわゆる“女らしさ”“男らしさ”を意味します。私たちは通常、この“女らしさ”“男らしさ”を生まれつき備わっているものとみなしがちですが、実はこうした性別による“らしさ”は普遍的なものではなく、私たちが育った社会や文化のなかで習得されてゆくものです。たとえば、家庭内での家事や育児を女性の役割、家庭外での労働を男性の役割とみなすのは、社会的な性別にすぎませんが、それが、仕事や結婚など社会の様々な側面で、女性

のみならず男性の生き方をも束縛しています。

女性の社会進出が進み、男女共同参画社会の理念も掲げられる中、ジェンダーについての問題意識を高め、それを社会的実践にまで結びつけることは、現代社会においてきわめて切実な課題となっています。ことに、人間と社会との関わりを考えるこの社会学部においては、重要な問題意識のひとつといえるでしょう。

副専攻「ジェンダー」では、家族社会学、ジェンダーとメディアなど、社会学部の専門科目はもとより、本学の特色である神学部の専門科目、さらに、法律、経済、歴史などの科目も含め、学際的な視野から幅広くジェンダーの問題を学ぶことで、ジェンダー・フリーな社会の形成に貢献できる人材の育成を目指します。ジェンダーの問題は一つの専門分野に限られるものではなく、社会の多岐に渡る現象に関わるものであり、それらを総合的に学ぶことではじめて深く理解できるテーマであるといえます。

従来、性差別の問題は、女性学やフェミニズムなど、主として女性の側から問題提起されてきましたが、1980年代以降、女性、男性という枠組みを越えて問題意識を共有するジェンダー研究が新たに発展してきました。さらには、男性の立場からジェンダーを研究する男性学も登場しています。性差の問題は女性のみならず、同時に男性の問題でもあるのです。

ジェンダー論とは単なる方法論ではありません。また、誤解されているような一定の極端な立場を押し付けようとするものでもありません。最終的には、女性男性を問わず、他者をいとおしむ心、すなわち「人間を愛（いと）おしむ」という社会学部のねらいへとつながります。

2-2. 「社会心理」副専攻

社会学部各学科の研究対象は「社会」です。その社会は「個人」という最小単位で構成されています。流行や世論、政治・社会運動、職場の生産性など、一人一人の個人の考えたこと（心理）や振る舞い（行動）の集合が社会を作りあげています。またその逆に個人の心理や行動が、社会や集団の中に所属することによって影響を受けていることも、ゼミやサークル、あるいは家族の中で日常的に経験していることでしょう。「社会心理」副専攻ではこのように、社会を捉える上でその構成要素である「個人」の心理や行動、人間関係のメカニズムを重視し、社会と個人がどのような相互規定関係にあるのかを探求します。「個人の意識や行動の、様々な単位の中でのあり方」（社会学）、「社会の中での心理・行動の健康福祉」（社会福祉学）、「メディアが心理・行動に与える影響」（メディア学）、「産業組織内での人々の振る舞いと心理」（産業関係学）、「心理・行動の変化と文化比較」（教育文化学）といった、心理や行動に関わる広範なテーマを横断的に理解することにより、社会に対する洞察をさらに一段深めることが「社会心理」副専攻の目指すものです。この理解は、主専攻としての各学科の探求の上でもプラスとなるでしょう。

□「社会心理」副専攻を学ぶために

社会学部各学科での心理・行動関係のテーマを扱う基本科目が「選択科目1」として、また応用的な科目が「選択科目2」として設置されています。さらに、個人の心理や行動を把握するうえでは、統計的分析手法が必須となるため、「社会統計学」等の研究手法に関わる科目、また各学科で開講されている「調査実習」等の科目を積極的に履修してください。その他、心理学部（旧文学部心理学科）に設置されている社会心理学関係科目群、および各学部設置されている行動科学関連諸科目を履修することにより、理解の幅がさらに広がることとなるでしょう。「社会心理」副専攻の学習の中で生じた疑問や、さらなる追求を希望する場合は、社会学部内の「社会心理」副専攻運営委員や科目担当教員に積極的に相談してください。

2-3. 「国際社会」副専攻

世界がますますグローバル化してゆく中で、われわれの生活は国内で完結することなく、世界の各地と直接結び付くようになっていきます。われわれの日々の食事はほとんど外国産の食材に依存しているし、石油やガソリンの生産は日常生活に直接影響を与えます。数年前のアジア金融危機が示しているように、遠くの国で生じた為替の変動が一瞬のうちに日本人の生活を不安定にすることもあります。こうした中で、われわれ

が国際社会について基本的知識を持つことは社会について理解をすすめようとする学生にとって不可欠なことだといえます。

「国際社会」副専攻は学生が国際社会について基本的な理解を高めていけるように開設されています。国際社会の理解には、事実的な知識以前に、異なる社会や文化をどのように理解するかという基本的な視角を養う必要があります、そのために「副専攻」では「社会人類学」、「国際社会学」、「エリアスタディ概論」などの基礎的な科目が用意されていますし、こうした視角をもとに、経済、宗教、メディア、教育、福祉といった多様な学問領域から国際社会の様態を理解できるよう、「産業関係論」、「多文化社会の教育と宗教」、「メディア・リテラシー概論」、「国際社会福祉」などの科目が提供されています。さらに、特定地域をより深く理解しようとするなら、各国の経済研究や社会研究の科目を履修することもできます。

「国際社会」副専攻を履修する学生は、直接自分に関わらない単なる知識を得るためにこれらの科目を受講するのではなく、自分自身を国際社会の一員として常に認識し、日常的に思考し、行動するための糧として学習をすすめていってもらいたいと考えます。

3. 縦断的（タテの）副専攻

3-1. 「社会学」副専攻

社会学は、人間と人間の関係や個人と社会の関係を研究する学問です。社会学の研究領域は幅広く、家族や学校、企業、農村、都市、全体社会、国際社会といった多様な集団、そしてそこにおけるさまざまな人びとの意識や行動を含んでいます。社会学を専攻する者はこういった諸領域を広く学ぶこととなりますが、それだけでなく、全ての社会集団に共通する「人間社会の基本構造」についても学ぶ必要があります。「社会について基礎からかつ広範に考える」という精神に社会学専攻の特徴があるのです。

社会学を専攻する者にとって大事なことは、理論的な知識と実証的な方法の双方をきちんと押さえるということです。そこでは、理論をもとに問題を設定する能力、その問題を解決するために種々の調査を行う能力、理論と調査結果の分析をもとに論理的に問題を解いていく能力が要求されます。質的・量的な調査技法についての知識は社会学ではとても大切です。

変動の激しい現代社会では社会に十分に適応できなかつたり、自己喪失に陥つたりする人々も少なくありません。このような問題を個人の心の問題としてだけではなく、社会構造との関連で考え、幸福の実現に向けての処方箋を作り出していくのも社会学の役割です。

3-2. 「社会福祉学」副専攻

□すべての人が人間らしく自分らしく暮らせる社会を目指して

同志社大学の社会福祉学科は1931年、大学レベルでは日本最初の社会事業学専攻として創設され、また1950年には日本最初の大学院社会福祉学専攻をスタートさせました。それ以来多年にわたり、校祖新島襄の悲願に呼応して、「良心を手腕に運用する」多くの社会福祉の実践者、教育研究者を育成してきました。そして今、このような本学の社会福祉教育・研究が積み重ねてきた歴史と伝統、そして実績を受け継ぎ、新たな発展を期して、21世紀福祉の時代を築く担い手を育てていこうとしています。

今日、私たちの周りに起こっている福祉問題といえば、たとえばどのようなものがあるでしょうか。

寝たきりや認知症などにより、日常生活に困難を抱える高齢者やその家族。

社会参加をしようにもさまざまな社会的制約や障壁（バリア）に直面して苦しむ障害者。

子育ての不安や悩みを抱え、誰にも相談できないでいる母親。

いじめや不登校、引きこもりに悩み、あるいは親からの虐待に苦しむ子どもたち。

失業や病気などにより、経済的に苦しい状態にある人々…。

これらの福祉問題は、決して一部の人に限られたことではなく、多くの人々が現在、そして将来に、少な

からず共有する問題です。そして、それらははたして、個人や家族だけで解決できる問題なのでしょうか。

人々の安定した生活を脅かすこのような福祉問題の性格や特徴は何か？ その社会的な背景や要因は何か？ どのような対策や援助が必要なのか？ 国は、社会は、私たちは何をすべきか？

社会福祉学科では、学生諸君が広い社会的視野に立って人間理解を深め、社会福祉問題の原因・結果と必要な施策・活動を科学的に考察し、そして社会福祉問題の解決に向けて実践する力を養うためのカリキュラムを用意しています。

3-3. 「メディア学」副専攻

メディア学科は社会学部の誕生とともに新たなスタートを切りました。その前身である文学部社会学科新聞学専攻は、1948年4月に発足した伝統あるメディア研究の拠点でした。戦前の軍国主義と戦争を阻止できなかった要因のひとつをジャーナリズムの貧困に求め、民主主義の発展を目指して教育と研究を重ねてきました。2005年度から始まったメディア学科はそのような伝統を受け継ぎ、新たなメディア環境に対応すべく再編成されたものであり、高度な研究能力と知識、国際的視野と的確な情報処理能力を備えた専門職業人の育成を目指します。

メディア学科では、幅広くメディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの問題を扱います。新聞・雑誌などの印刷メディアはもちろん、テレビ・ラジオなどの放送メディア、インターネットや広告など、対象とする範囲も多種多様です。現状を把握し社会的役割や内容について考えるだけでなく、情報の読み方や発信の方法などについても学びます。

カリキュラムには「メディアとジャーナリズム」「情報と社会」「コミュニケーションと文化」という3つの領域があります。これらは有機的に結び付くように構成され、ジャーナリズムを志す者はもちろん、社会生活を送るうえで身に付けておかなければならない、メディアに対する感受性の育成や批判力の修得を学習のねらいにしています。

3-4. 「産業関係学」副専攻

人は、生活の糧を得ると同時に、充実した人生を送るためにも働いています。人生の大半の時間を仕事に費やすため、仕事をとおした自己実現がはかられているといえるでしょう。だからこそ、各人の「仕事に対する思い」には切実なものがあるのです。その仕事に対する思いと社会や組織が追求する目的とを調整する際に、さまざまな課題が生じます。たとえば、音楽への関心や技能を企業で活かしたい、インターネットを使って家で仕事をしたい、仕事だけでなく家庭も趣味も大切にしたい、結婚して子どもが生まれても仕事を続けたいなどさまざまです。これらの願望を実現するには、個人の希望と集団や組織の使命との調和をいかに図るかを、雇用に関する制度・政策に即して考えることが必要になります。

また、企業は従業員のやる気や実力をどのように評価しているのか。仕事によるストレスが健康にどのような影響を与えているのか。1日の法定労働時間は8時間と定められているのに、なぜ企業に勤める人の多くは残業をしているのか。こうした疑問を解決するには、何よりもまず職場の実態（効率的に運営するための仕組みや働く人の気持ちなど）を理解しなければなりません。

産業関係学は、こうした「働くこと」から生じる諸問題について、経済学、心理学、労務管理学、社会学、法学など多様な領域から実践的に研究する学問です。そこで、産業関係学科は理論研究と実証研究を重視したカリキュラムを提供しています。具体的には、次のような柱をあげることができます。

□「産業関係基礎論」「産業関係論」 現代における仕事のあり方と労使関係の理論および方法を学びます。

□「産業関係実習」 実務家に対するヒアリング調査やアンケート調査等によって産業社会の実際を学びます。

3-5. 「教育文化学」副専攻

本学科は文化や歴史の中での人間形成に関わる諸現象を研究対象とし、人間形成における歪みや荒廃の原因を明らかにするとともに、新しい世紀における人間形成の理念と思想及び具体的な方法を提示することを目的としています。とりわけ、民族や国家を異にする様々な人々が共存・共生を求められている今日の世界状況において、多様な文化の交わりが人間形成に及ぼす影響とそこにおける教育の役割を考えることが、本学科の特質です。人間形成は誕生から人生の終焉にいたるまでの間で達成されるものですから、従来の教育学のように、学校に教育を閉じこめて考えるのではなく、あらゆる「場」における人間形成のあり方を研究対象とします。人間は民族や国家が長い年月をとおして作りあげてきた生活に関する様々な習慣や人間関係など、文化総体のなかで自己形成をしていきます。とりわけ近代になると国家の枠組みの制約を受けた国民教育を通して人間形成が展開されます。このように人間形成を規定している様々な要因を分析する中で、新しい時代の人間形成の理念と方法を模索しようとするのが本学科の学びの目標とするところです。同時に、将来国際人として世界に活躍できる人材の育成に努めます。

□これらの目的を達成するために、本学科では次のような教育方針を重視しています。

- (1) 学生の「学び」に重点をおいた「教え」に努めています。
- (2) 知識や概念の単なる習得ではなく、徹底して「考える」ことに重きをおきます。
- (3) 教授陣は「教え」・「命令」するのではなく、「語り」・「共に学ぶ」ことに努めています。
- (4) 教授陣と学生の人格的な交わりに努めています。
- (5) 何事においても自治・自由の精神を尊重しています。
- (6) 留学体験を重んじます。学生の留学を出来る限りサポートします。

□教育文化学科では次のような研究が可能です。

- (1) 人が異文化と交流する際に障壁となる心理的葛藤や言語の問題を扱います。
- (2) 異なる宗教や文化の交流と人間形成の特質、及びそこに生じた社会変容を扱います。
- (3) 日本と日本人の伝統的な特性とアジアや欧米文化との交流による変容を扱います。
- (4) 欧米の人間形成に関わる文化と思想の特質や学校文化の形成過程を扱います。
- (5) 学校教育における異文化理解の方法や教科を通した歴史認識などを扱います。
- (6) 地域社会における青少年の教育機能や成人の生涯教育に関するテーマを扱います。
- (7) 新しい大学教育の役割と社会との連携やジェンダーの教育論などを扱います。

4. 副専攻科目表

それぞれの副専攻では、P.136～141の科目表に記載の科目を「副専攻科目」として指定しています。科目表で定められた選択科目1と選択科目2から所定の単位数を履修すれば副専攻を修了したことになります。

《注意事項》

同一の科目名であっても、クラスによってあるいは履修した年度によって副専攻指定科目とならない場合があります。必ず毎年度、副専攻科目表を確認してください。

演習や実習科目の履修を希望する者はP.136～141の審査方法・備考欄を確認の上、必要な手続きをとるようになしてください。

副専攻の履修について

・副専攻履修の申請手続について

副専攻を履修するには、先行登録期間中にDUET（web）より「副専攻履修の申請」をしてください。

副専攻は2つまで申請できます。

縦断的副専攻のうち、所属学科と同一の副専攻は選択できません。

副専攻履修の申請は、

2023年度以前生：2年次春学期～4年次秋学期まで

2024年度以降生：1年次春学期～3年次春学期まで 可能です。

すでに申請済みの副専攻を取り消す場合は、先行登録期間にDUET（web）より取り消してください。

・科目登録について

副専攻科目のうち、『履修要項』開講科目一覧表に記載の他学科履修区分が「不可」となっている科目についても、副専攻履修の申請をしている場合は、その科目を登録することができます。ただし、科目ごとに別途選考などが実施される場合はそれらの選考などの結果、登録が許可された場合に限りです。

副専攻科目として受講を希望する科目で、登録前に選考などが実施される場合は、副専攻履修の申請前であってもその選考などを受けてください。

免許資格科目として登録した科目（「M」登録科目）も、副専攻科目として有効です。

ただし「M」登録は、教員免許や図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員の資格取得を希望するものが、資格取得に必要な科目に限って認められている制度です。免許資格取得に関係のないものが、副専攻科目に「M」をつけて登録することはできませんので注意してください。

・修得単位について

副専攻履修の申請前に修得した単位も副専攻科目として有効です。但し、科目により例外があるため、次ページ以降の科目表を確認してください。

副専攻科目として修得した単位は卒業単位としても有効になります。この場合、自分の所属する学科以外の学科・他学部設置科目は、選択科目Ⅱに算入されます。

副専攻を変更した場合や副専攻を修了しなかった場合でも、既に修得した単位は卒業単位として有効です。

・副専攻修了（見込）証明書について

副専攻を修了すると、卒業時に「副専攻修了証明書」を発行します。

また、最終年次生で、副専攻修了見込みであれば、「副専攻修了見込証明書」を発行します。

◎その他副専攻制度について不明な点は、社会学部事務室まで問い合わせてください。

社会学部副専攻

縦断的副専攻 科目表

縦断的副専攻	社会学				
	科目名	単位	事前相談・審査を要する科目	審査方法・備考	
選択科目1	現代社会論	2		社会学概論 事前相談は不要だが、社会調査士を取得するためには⑥クラスを履修する必要があるため登録クラスに注意すること。	
	社会学概論	4			
	エリアスタディ概論(2022年度以前生対象)	2			
	社会調査入門	2			
	社会学理論	4			
	社会学研究法A	2			
	社会学研究法B	2			
	◆8単位以上履修すること				
選択科目2	社会学演習I	2		社会学演習II (1)・(2) 登録希望者は、3/31までに社会学部事務室へメールで連絡すること。 (連絡先は、shakaigakubu@mail.doshisha.ac.jp) 登録可否は担当教員が判断する。	
	社会学演習II (1)	2	○		
	社会学演習II (2)	2	○		
	家族社会学	4			
	地域社会学	4			
	国際社会学	4			
	社会心理学	2			
	社会人類学	2			
	教育社会学	2			
	情報社会学	2			
	社会調査実習I	2	○		社会調査実習I・II 登録希望者は、3/31までに社会学部事務室へメールで連絡すること。 (連絡先は、shakaigakubu@mail.doshisha.ac.jp) 登録可否は担当教員が判断する。
	社会調査実習II	2	○		
	仕事の社会学	2			
	災害社会学	2			
	社会統計学I	2			
	社会統計学II	2			
	社会学説史	2			
	文化社会学	4			
	ジェンダーの社会学	4			
	エリアスタディ概論(2023年度以降生対象)	2			
	社会学特講I	4			
	社会学特講II	4			
	社会学特講III	4			
	現代社会学特論I	2			
	現代社会学特論II	2			
	現代社会学特論III	2			
	社会問題	2			
	比較社会学	4			
合計	30単位				

社会学部副専攻

縦断的副専攻 科目表

縦断的副専攻	メディア学			
	科目名	単位	事前相談・審査を要する科目	審査方法・備考
選択科目Ⅰ				
選択科目Ⅱ	メディア学基礎演習Ⅰ	2	○	メディア学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、メディア学演習Ⅰ～Ⅳ 登録希望者は、3/31までに社会学部事務室へメールで連絡すること。 (連絡先は、shakaigakubu@mail.doshisha.ac.jp) 登録可否は担当教員が判断する。
	メディア学基礎演習Ⅱ	2	○	
	メディア学演習Ⅰ	2	○	
	メディア学演習Ⅱ	2	○	
	メディア学演習Ⅲ	2	○	
	メディア学演習Ⅳ	2	○	
	ジャーナリズム史	2		
	メディア史	2		
	メディア・リテラシー概論	2		
	比較メディア論	2		
	ジャーナリズム論Ⅰ	2		
	ジャーナリズム論Ⅱ	2		
	ジェンダーとメディア	2		
	情報行動論	2		
	環境情報学	2		
	映像情報学	2		
	メディア社会論	2		
	世論と社会	2		
	メディア産業論	2		
	メディア法制倫理	2		
	広報情報論	2		
	メディア文化史	2		
	コミュニケーション論	2		
	メディア心理学Ⅰ	2		
	メディア心理学Ⅱ	2		
	現代文化論	2		
	広告論	2		
	マルチメディア論(2021年度以前生対象)	2		
	デジタルメディア論(2022年度以降生対象)	2		
	国際コミュニケーション論	2		
	放送論	2		
	メディア学社会調査法Ⅰ	2		
	メディア学社会調査法Ⅱ	2		
	◆メディア学科開講科目表の 選択科目ⅠのA～C群より、 各6単位を履修すること			
合計	30単位			

社会学部副専攻

縦断的副専攻 科目表

縦断的副専攻	産業関係学			
	科目名	単位	事前相談・審査を要する科目	審査方法・備考
選択科目1	現代社会と労働	2		
	産業関係基礎論	2		
	産業関係論(1)	2		
	産業関係論(2)	2		
	産業社会学(1)	2		
	労働科学論(2)	2		
	労務管理論(1)	2		
	労働市場論(1)	2		
	働くということ	2		
	◆8単位以上履修すること			
選択科目2	産業関係学演習Ⅰ	2	○	産業関係学演習Ⅰ・Ⅱ 登録希望者は、3/31までに担当教員へメールで連絡すること(連絡先は、『履修要項2025』の最終ページを参照)。
	産業関係学演習Ⅱ	2	○	
	労働問題(1)	2		
	労働問題(2)	2		
	産業社会学(2)	2		
	社会政策(1)	2		
	社会政策(2)	2		
	産業関係論特講A	2		
	産業関係論特講B	2		
	産業関係論特講C	2		
	産業調査統計論(1)	2		
	産業調査統計論(2)	2		
	社会保障法	2		
	産業技術論(1)	2		
	産業技術論(2)	2		
	労働科学論(1)	2		
	労務管理論(2)	2		
	労働市場論(2)	2		
	組織行動学(1)	2		
	組織行動学(2)	2		
	労働法Ⅰ(2020年度以前生対象)	2		
	労働法Ⅱ(2020年度以前生対象)	2		
	労働法(1)(2021年度以降生対象)	2		
	労働法(2)(2021年度以降生対象)	2		
	比較産業関係論(1)	2		
	比較産業関係論(2)	2		
	グローバル人的資源管理論Ⅰ(2020年度以前生対象)	2		
	グローバル人的資源管理論Ⅱ(2020年度以前生対象)	2		
	グローバル人的資源管理論Ⅰ(2021年度以降生対象)	2		
	グローバル人的資源管理論Ⅱ(2021年度以降生対象)	2		
産業関係実習Ⅰ	2	○	産業関係実習Ⅰ・Ⅱ、実践キャリア演習(2021年度以降生対象) 登録希望者は、3/31までに社会学部事務室へメールで連絡すること。 (連絡先は、shakaigakubu@mail.doshisha.ac.jp) 登録可否は担当教員が判断する。	
産業関係実習Ⅱ	2	○		
実践キャリア演習(2021年度以降生対象)	2	○		
合計	30単位			

社会学部副専攻

縦断的副専攻 科目表

縦断的副専攻	教育文化学						
	2017年度以前生		2018年度以降生		2017年度以前生・2018年度以降生共通		
	科目名	単位	科目名	単位	事前相談・審査を要する科目	審査方法・備考	
選択科目1	教育文化論	2	多文化共生社会と教育文化	2		基礎演習ⅡA～H、基礎演習Ⅰ 登録希望者は、3/31までに社会学部事務室へメールで連絡すること。 (連絡先は、shakaigakubu@mail.doshisha.ac.jp) 登録可否は担当教員が判断する。	
	文化と人間形成	2	多文化共生社会と人間形成	2			
	教育文化学基礎演習Ⅰ	2					
	教育文化学基礎演習ⅡA	2	基礎演習ⅡA	2	○		
	教育文化学基礎演習ⅡB	2	基礎演習ⅡB	2	○		
	教育文化学基礎演習ⅡC	2	基礎演習ⅡC	2	○		
	教育文化学基礎演習ⅡD	2	基礎演習ⅡD	2	○		
	教育文化学基礎演習ⅡE	2	基礎演習ⅡE	2	○		
	教育文化学基礎演習ⅡF	2	基礎演習ⅡF	2	○		
	教育文化学基礎演習ⅡG	2	基礎演習ⅡG	2	○		
	教育文化学基礎演習ⅡH	2	基礎演習ⅡH	2	○		
	教育文化学基礎演習ⅡI	2	基礎演習Ⅰ	2	○		
	◆6単位以上履修すること。 教育文化学基礎演習Ⅱについては4単位までしか履修できない。			◆6単位以上履修すること。 基礎演習Ⅱについては4単位までしか履修できない。			
	選択科目2	日本教育文化史(1)	2	日本教育文化論(1)	2		
日本教育文化史(2)		2	日本教育文化論(2)	2			
西洋教育文化史(1)		2	西洋教育文化論(1)	2			
西洋教育文化史(2)		2	西洋教育文化論(2)	2			
キリスト教教育文化論(1)		2	キリスト教教育文化論(1)	2			
キリスト教教育文化論(2)		2	キリスト教教育文化論(2)	2			
比較教育文化論(1)		2	比較教育文化論(1)	2			
比較教育文化論(2)		2	比較教育文化論(2)	2			
移民教育文化論(1)		2	多文化共生社会と移民教育文化(1)	2			
移民教育文化論(2)		2	多文化共生社会と移民教育文化(2)	2			
Globalization E&C(1)		2	Education and World Culture(1)	2			
Globalization E&C(2)		2	Education and World Culture(2)	2			
アジア教育文化論(1)		2	アジア教育文化論(1)	2			
アジア教育文化論(2)		2	アジア教育文化論(2)	2			
			市民教育文化論(1)	2			
			市民教育文化論(2)	2			
教育問題史		2	多文化共生社会と教育史	2			
キリスト教人間形成論		2	キリスト教と人間形成	2			
比較教育思想		2	多文化共生社会と教育思想	2			
ジェンダーと教育		2	ジェンダーと人間形成	2			
海外教育事情		2	多文化共生社会と海外教育事情	2			
教育文化学特定研究Ⅰ		2	多文化共生社会と人間形成特論(1)	2			
教育文化学特定研究Ⅱ		2	多文化共生社会と人間形成特論(2)	2			
			家族と人間形成	2			
Topics in Overseas Education		2	Topics in Education and Development	2			
Topics in Japanese Education		2	Topics in Character Formation and Education	2			
Special Topics in Education and Culture		2	Topics in Multiculturalism and Education	2			
教育哲学		2	教育哲学	2			
教育人間学		2	教育人間学	2			
教育行政学		2	教育行政学	2			
学校教育制度論		2	学校教育制度論	2			
生涯教育計画論		2	生涯教育計画論	2			
比較生涯学習論		2	比較生涯学習論	2			
学校教育文化論(1)	2	学校教育文化論(1)	2				
学校教育文化論(2)	2	学校教育文化論(2)	2				
社会教育文化論(1)	2						
社会教育文化論(2)	2						
合計	30単位		30単位				

社会学部副専攻

横断的副専攻 科目表

横断的副専攻	ジェンダー			社会心理			国際社会			
	設置学部	科目名	単位	設置学部	科目名	単位	設置学部	科目名	単位	
選択科目1	【社】	ジェンダーの社会学	4	【社】	社会心理学	4	【社】	社会人類学	4	
	【社】	現代社会学特論Ⅲ	2	【社】	社会統計学Ⅰ	2	【社】	国際社会学(2023年度以降生対象)	4	
	【福】	ジェンダーと社会福祉	2	【福】	精神保健学(2020年度以前生対象)	4	【社】	文化社会学(2022年度以前生対象)	4	
	【メ】	ジェンダーとメディア	2	【福】	現代の精神保健の課題と支援(2021年度以降生対象)	4	【福】	社会問題論	2	
	【産】	労務管理論(2)	2	【メ】	比較メディア論	2	【メ】	メディア史	2	
	【産】	労働市場論(2)	2	【メ】	情報行動論	2	【産】	産業関係論(1)	2	
	【教】	ジェンダーと人間形成	2	【メ】	映像情報学	2	【産】	産業関係論(2)	2	
				【メ】	メディア社会論	2	【教】	多文化共生社会と移民教育文化(1)	2	
				【メ】	広報情報論	2	【教】	多文化共生社会と移民教育文化(2)	2	
				【メ】	コミュニケーション論	2	【教】	Education and World Culture(1)	2	
				【メ】	メディア心理学Ⅰ	2	【教】	Education and World Culture(2)	2	
				【メ】	メディア心理学Ⅱ	2				
				【メ】	広告論	2				
				【産】	組織行動学(1)	2				
					◆8単位以上履修すること					
	選択科目2 (社会学部)	【社】	家族社会学	4	【社】	社会調査入門	2	【社】	エリアスタディ概論(2022年度以前生対象)	2
		【社】	教育社会学	2	【社】	家族社会学	4	【社】	国際社会学(2022年度以前生対象)	4
【福】		家族福祉論	2	【社】	社会統計学Ⅱ	2	【社】	文化社会学(2023年度以降生対象)	4	
【メ】		メディア文化史	2	【社】	社会問題	2	【社】	社会学特論Ⅱ	4	
【産】		産業社会学(1)	2	【福】	精神医学(2020年度以前生対象)	4	【社】	現代社会学特論Ⅰ	2	
【産】		産業社会学(2)【※1】	2	【福】	精神医学と精神医療(2021年度以降生対象)	4	【社】	比較社会学	4	
【産】		労働法Ⅰ(2020年度以前生対象)	2	【メ】	世論と社会	2	【福】	国際社会福祉	4	
【産】		労働法Ⅰ(2021年度以降生対象)	2	【産】	産業調査統計論(1)	2	【メ】	メディア・リテラシー概論	2	
【教】		多文化共生社会と海外教育事情【※1】	2	【産】	産業調査統計論(2)	2	【メ】	国際コミュニケーション論	2	
【教】		家族と人間形成	2	【産】	労働科学論(1)	2	【メ】	社会思想史	2	
【共】		キャリア開発と学生生活	2	【産】	組織行動学(2)	2	【産】	比較産業関係論(2)	2	
【共】		複合領域科目Ⅰ[現代社会と倫理(1)]	2	【教】	教育心理学	2	【教】	多文化共生社会と教育史	2	
【共】		複合領域科目Ⅱ[現代社会と倫理(2)]	2				【教】	キリスト教教育文化論(1)	2	
							【教】	キリスト教教育文化論(2)	2	
							【教】	Topics in Education and Development	2	
							【教】	多文化共生社会と海外教育事情	2	
選択科目2 (他学部)		【神】	現代神学の論点Ⅰ[宗教とジェンダー]	2	【法】	政治参加と選挙	2	【文】	西洋社会史(1)	2
	【神】	現代神学の論点Ⅱ[エコフェミニズムの思想と宗教]	2	【文情】	人間と感性	2	【文】	西洋社会史(2)	2	
	【神】	現代実践神学の課題Ⅰ	2	【文情】	人間と文化	2	【法】	アメリカ政治外交論	2	
	【神】	宗教人類学Ⅰ	2	【心】	認知心理学(知覚・認知心理学)	2	【法】	EU政治論	2	
	【神】	宗教人類学Ⅱ	2	【心】	環境心理学	2	【法】	中国政治論	2	
	【神】	イスラーム法学Ⅲ	3	【心】	臨床社会心理学	2	【経】	アジア経済史	2	
	【商】	企業と女性	2	【心】	産業・組織心理学	2	【経】	中国経済	2	
	【政】	ジェンダー政策(2020年度以前のみ履修可)	2	【心】	実験社会心理学(Ⅰ)(社会・集団・家族心理学Ⅰ)	2	【経】	アメリカ経済	2	
	【心】	発達心理学	2	【心】	実験社会心理学(Ⅱ)(社会・集団・家族心理学Ⅱ)	2	【経】	アメリカ経済史	2	
				【心】	パーソナリティ心理学(感情・人格心理学Ⅱ)	2	【経】	ヨーロッパ経済	2	
							【経】	ヨーロッパ経済史	2	
							【経】	国際政治経済Ⅰ	2	
							【経】	国際政治経済Ⅱ	2	
							【経】	開発経済Ⅰ	2	
							【経】	開発経済Ⅱ	2	
							【商】	国際開発論	2	
							【商】	欧米経済論	2	
							◆他学部設置科目は6単位以内とする			
合計	30単位			30単位			30単位			

【※1】 2018年度以前に単位を修得した場合、副専攻科目として算入されますが、2019年度以降は副専攻科目として算入されません。

記号注

【社】社会学部科目、【福】社会福祉学部科目、【メ】メディア学部科目、【産】産業関係学部科目、【教】教育文化学部科目

【共】全学共通教養教育科目、【神】神学部科目、【文】文学部科目、【法】法学部科目、【経】経済学部科目、【商】商学部科目、【政】政策学部科目

【心】心理学部科目、【文情】文化情報学部科目

副専攻

サイエンスコミュニケーター養成副専攻について

・サイエンスコミュニケーター養成副専攻とは

本副専攻は、文系理系を問わず参画学部 of 学生を対象に、科学分野でおこる社会問題を正しく読み解き、解説できる人材を養成する学部横断型副専攻（教育プログラム）です。地震などによる災害、原発事故、環境問題、STAP細胞問題、医学部や製薬企業などのデータ改ざん・論文ねつ造などが大きな社会問題となっている今日、科学リテラシーをもつ人材は、企業を含め広く社会から求められています。

科学リテラシーとは、自然界で起こる様々な事象や変化を正しく理解し、自己の意思決定をするために、科学的知識を用いて問題を明確にしたうえで結論を導き出す能力のことです。本副専攻において、理系学生は、社会の要請を敏感に感じ取り、正確かつ分かりやすい表現で説明する能力を身に付けます。文系学生は、社会問題につながる科学技術分野、中でも健康と環境に関わる分野の基礎理解と評価力を習得します。履修生の就職先は、各種企業、マスコミ、出版社、教育機関そして官庁などを想定していますが、研究倫理や科学リテラシーを履修した学生は今後、社会のあらゆる分野において活躍が期待されます。

・履修にあたって

- 本副専攻の履修を希望する場合、所定の期間までに**申請が必要**です。履修希望者は説明会時に案内した申請要領（DUETメッセージでも案内予定）に従い、申請手続を行ってください。選考の上、副専攻履修可否を決定します。なお、選考により不許可となった場合、当該年度内は再度申請できません。
- 2年次生以上が申請可能です。
- 認定科目のうち、副専攻履修許可者のみ登録履修が許可される科目があります。
- 副専攻認定科目の中には、自由科目扱い（卒業必要単位に含まれない）となる科目がありますが、一定の条件を満たすことで卒業必要単位に含めることができます。詳細についてはP.144～147の「副専攻認定科目一覧表」を確認してください。
- 申請年度より以前に修得していた単位も遡及して認定単位として算入されます。
- 所定単位を完修した場合には、卒業時から副専攻履修証明書の発行が可能です。また、副専攻認定科目の修得状況と科目登録状況をあわせた結果、修了見込となった場合には、履修中に副専攻履修見込証明書の発行が可能です。
- サイエンスコミュニケーター養成副専攻の取消を希望する場合は、社会学部事務室へ申し出てください。

・修了要件

- 修了必要単位数：20単位

履修体系	必要単位数
サイエンスリテラシー科目群	12単位以上
コミュニケーター関連科目群 ※各選択グループ【選択（1）～（4）】から算入されるのは、グループごとに上限4単位まで。	8単位以上
選択（1）【生命系】	
選択（2）【神・文・社会・心理系】	
選択（3）【法・政策系】	
選択（4）【経済系】	
合計	計20単位以上

サイエンスコミュニケーター養成副専攻

2025年度 サイエンスコミュニケーター養成副専攻認定科目一覧表

サイエンスリテラシー科目群				
履修体系	科目コード	科目名 —サブタイトル—	単位	算入先
サイエンス リテラシー	I1433502	科学技術概論Ⅰ —科学技術社会論—	2	自由科目扱い（卒業単位に 含まない） ※ただし、サイエンスリテラシー 科目群から12単位以上を履修し た場合は、選択科目Ⅱの単位と して算入する。（卒業単位に含 めることができる）
	I1433503	科学技術概論Ⅱ —調査方法論／統計学—	2	
	I1433504	アウトリーチ実習 —科学技術表現実習—	2	
	I1433505	サイエンスライティング	2	
	I1433517	サイエンスとインテリジェンス —ベイトソン研究—	2	
	I1433519	サイエンスとインテリジェンス —集中読解と議論—	2	
	I1433506	サイエンス・ナウⅠ —生命科学とこころの科学—	2	
	I1433507	サイエンス・ナウⅡ —生命医科学入門—	2	
	I1433508	サイエンス・ナウⅢ —報道と広報の現場—	2	
	I1433509	サイエンス・ナウⅣ —放射線、原子力、エネルギー—	2	
	I1433510	サイエンス・ナウⅤ —メディカルワークショップ・インターンシップⅡ基礎講義—	2	
	I1433514	サイエンス・ナウⅥ —生命科学と社会—	2	
	I1433518	サイエンス・ナウⅦ —食、健康、科学リテラシー—	2	
I1433522	サイエンス・ナウⅧ —多様なサイエンスコミュニケーション—	2		
インターンシップ ワークショップ	I1433515	ビジネスワークショップ 【2017年度生以降が履修可】	2	
	I1433516	メディカルワークショップ 【2017年度生以降が履修可】	2	
	I1433520	取材・インタビュー実践講座	2	
	I1433521	未知型探索ビジネスワークショップ	2	

コミュニケーター関連科目群					
履修体系	科目コード	科目名	単位	算入先	
選択（Ⅰ）	生命系	I1433008	人体の構造と機能Ⅰ	2	選択科目Ⅱ
		I1433001	生命医科学概論	2	〃
		I1433007	臨床医学概論	2	〃
		I1439005	公衆衛生学	2	〃
		I1433002	生物学	2	〃
		I1422102	生物情報概論	2	〃
		I1422015	生化学	2	〃
		I1433108	アンチエイジング	2	〃
I1433109	機能性食品医学	2	〃		
選択（Ⅱ）	神系	I0110101	旧約聖書学入門Ⅰ 【2025年度以降生が履修可】	2	〃
		I0103021	旧約聖書学入門Ⅰ 【2024年度以前生が履修可】	2	〃
		I0110102	旧約聖書学入門Ⅱ 【2025年度以降生が履修可】	2	〃
		I0103022	旧約聖書学入門Ⅱ 【2024年度以前生が履修可】	2	〃
		I0110103	新約聖書学入門Ⅰ 【2025年度以降生が履修可】	2	〃
		I0103031	新約聖書学入門Ⅰ 【2024年度以前生が履修可】	2	〃
		I0110104	新約聖書学入門Ⅱ 【2025年度以降生が履修可】	2	〃
		I0103032	新約聖書学入門Ⅱ 【2024年度以前生が履修可】	2	〃
		I0110174	イスラーム史概説 【2025年度以降生が履修可】	2	〃
		I0103611	イスラーム史概説Ⅰ 【2024年度以前生が履修可】	2	〃
		I0110158	ユダヤ史概説Ⅰ 【2025年度以降生が履修可】	2	〃
		I0103821	ユダヤ教とその周辺文化Ⅰ 【2024年度以前生が履修可】	2	〃
	I0110159	ユダヤ史概説Ⅱ 【2025年度以降生が履修可】	2	〃	
	I0103822	ユダヤ教とその周辺文化Ⅱ 【2024年度以前生が履修可】	2	〃	
	文系	I0240107	哲学概論（Ⅰ）	2	〃
		I0240108	哲学概論（Ⅱ）	2	〃
		I0240081	科学哲学（Ⅰ）	2	〃
		I0240082	科学哲学（Ⅱ）	2	〃
		I0240109	倫理学概論（Ⅰ）	2	〃
		I0240110	倫理学概論（Ⅱ）	2	〃
社会系	I0912113	情報社会学	2	各学科の履修要項参照	
	I0912114	仕事の社会学	2	〃	
	I0912115	災害社会学	2	〃	
	I0922168	医療福祉論	2	〃	
	I0922212	障害者福祉論 【2021年度生以降が履修可】	2	〃	
	I0922171	障害者福祉論Ⅰ 【2020年度生以前が履修可】	2	〃	

サイエンスコミュニケーター養成副専攻

選択 (2)	社会系	10922211	児童・家庭福祉論 【2021年度生以降が履修可】	2	各学科の履修要項参照
		10922175	児童福祉論Ⅰ 【2020年度生以前が履修可】	2	〃
		10932110	ジャーナリズム論Ⅰ	2	〃
		10932111	ジャーナリズム論Ⅱ	2	〃
		10932143	メディア心理学Ⅰ	2	〃
		10932144	メディア心理学Ⅱ	2	〃
		10932106	比較メディア論	2	〃
		10952117	ジェンダーと教育 【2017年度生以前が履修可】	2	〃
		10952120	ジェンダーと人間形成 【2018年度生以降が履修可】	2	〃
		—	障害者福祉論Ⅱ 【2020年度生以前が履修可、2022年度以前の修得単位のみ認定】	2	〃
		—	児童福祉論Ⅱ 【2020年度生以前が履修可、2022年度以前の修得単位のみ認定】	2	〃
		—	精神保健福祉論 【2020年度生以前が履修可、2023年度以前の修得単位のみ認定】	4	〃
		—	社会福祉入門 【2021年度以前の修得単位のみ認定】	2	〃
		—	マルチメディア論 【2016年度以前の修得単位のみ認定】	2	〃
—	放送論 【2021年度以前の修得単位のみ認定】	2	〃		
心理系	11700315	リスク心理学	2	選択科目Ⅱ	
	11700201	生理心理学 【2017年度生以前が履修可】	2	〃	
	11700211	生理心理学(神経・生理心理学) 【2018年度生～2023年度生が履修可】	2	〃	
	11700216	生理心理学(神経・生理心理学Ⅰ) 【2024年度以降生が履修可】	2	〃	
選択 (3)	法系	10307502	国際関係入門	2	〃
		10307503	日本政治入門	2	〃
		10307504	政治思想入門 【2021年度生以前が履修可】	2	〃
		10307505	歴史・思想入門 【2022年度以降生のみ履修可】	2	〃
		10307121	法と社会	2	〃
		10308021	民法概論	2	〃
		10308061	知的財産法概論	2	〃
	政策系	—	社会調査入門 【2020年度以前の修得単位のみ認定】	2	〃
		—	環境法 【2020年度以前の修得単位のみ認定】	2	〃
		—	環境政策 【2020年度以前の修得単位のみ認定】	2	〃
—	ジェンダーと福祉 【2020年度以前の修得単位のみ認定】	2	〃		
—	ジェンダー政策 【2020年度以前の修得単位のみ認定】	2	〃		
—	科学技術政策 【2020年度以前の修得単位のみ認定】	2	〃		
選択 (4)	経済系	10407001	経済学概説 【2019年度以前生が履修可】	2	〃
		10403001	経済理論入門 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10407002	日本経済入門 【2019年度以前生が履修可】	2	〃
		10403002	日本経済入門 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10407003	経済学の歴史 【2019年度以前生が履修可】	2	〃
		10403003	経済学の歴史 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10407004	IT基礎論Ⅰ 【2019年度以前生が履修可】	2	〃
		10403004	IT基礎論Ⅰ 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10407051	初級ミクロ経済学 【2019年度以前生が履修可】	4	〃
		10403051	初級ミクロ経済学Ⅰ 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10403052	初級ミクロ経済学Ⅱ 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10407052	初級マクロ経済学 【2019年度以前生が履修可】	4	〃
		10403053	初級マクロ経済学Ⅰ 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10403054	初級マクロ経済学Ⅱ 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10407054	統計 【2019年度以前生が履修可】	4	〃
		10403057	統計Ⅰ 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10403058	統計Ⅱ 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10407055	経済史 【2019年度以前生が履修可】	2	〃
		10403059	経済史 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10403060	環境と資源の基礎 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10407056	環境と資源 【2019年度以前生が履修可】	4	〃
		10407057	IT基礎論2 【2019年度以前生が履修可】	2	〃
		10403061	IT基礎論2 【2020年度以降生が履修可】	2	〃
		10407802	科学と技術 【2019年度以前生が履修可】	2	〃
		10403802	科学と技術 【2020年度以降生が履修可】	2	〃

サイエンスコミュニケーター養成副専攻

科目群	登録コード		科目名 —サブタイトル— クラス	単位	担当者	期間 時間	履修条件など
	科目コード	クラスコード					
2～	11433502	001	科学技術概論Ⅰ —科学技術社会論— ①	2	元村有希子	春2	科学技術概論Ⅰ・Ⅱ アウトリサーチ実習 サイエンスライティング サイエンス・ナウ1,2,3,4,5,6,7,8 テレビ会議システムを 利用した遠隔講義科目 である。「アウトリサー チ実習」は先行登録科 目である。詳細は『登 録要領』を参照。
		051	// ⑤				
2～	11433503	001	科学技術概論Ⅱ —調査方法論/統計学— ①	2	休講		
		051	// ⑤				
2～	11433504	001	アウトリーチ実習 —科学技術表現実習— ①	2	高橋 美帆、角田 伸人 和久 剛、三田雄一郎 元村有希子、榎 太一 西川 恵三、古川 圭子 代島 裕世、村松 秀	秋2	
		051	// ⑤				
2～	11433505	001	サイエンスライティング ①	2	元村有希子 北川 貞大	春2	
		051	// ⑤				
2～	11433517		サイエンスとインテリジェンス —ペイトソン研究— ①	2	佐藤 優 野口 範子	秋集中	
2～	11433519		サイエンスとインテリジェンス —集中読解と議論— ①	2	佐藤 優、高橋 真仁 野口 範子	春集中 (夏期集中)	
2～	11433506	001	サイエンス・ナウ1 —生命科学とこころの科学— ①	2	祝迫 恵子 永井 五洋	秋2 (隔週)	
		051	// ⑤				
2～	11433507	001	サイエンス・ナウ2 —生命医科学入門— ①	2	祝迫 恵子 朝霧 成拳	秋2	
		051	// ⑤				
2～	11433508	001	サイエンス・ナウ3 —報道と広報の現場— ①	2	野口 範子、西沢 邦浩 奥野 敦史、小川 義和 榎 太一、山梨 裕美 田中 正之、音田裕一郎 村松 秀、河崎 誠記 大治 朋子、岡田小枝子	春2	
		051	// ⑤				
2～	11433509	001	サイエンス・ナウ4 —放射線、原子力、エネルギー— ①	2	後藤 琢也、蜂谷 寛 平田 仁子、柴田 一成	春2	
		051	// ⑤				
2～	11433510	001	サイエンス・ナウ5 —メディカルワークショップ・インターンシップⅡ基礎講義— ①	2	池川 雅哉、坪井 知正 佐藤 敦夫、國代 尚章	春2	
		051	// ⑤				
2～	11433514	001	サイエンス・ナウ6 —生命科学と社会— ①	2	齋藤 直人、舟本 聡 市川 寛、祝迫 恵子 和久 剛、小林 耕太 大江 洋平	秋2	
		051	// ⑤				
2～	11433518	001	サイエンス・ナウ7 —食、健康、科学リテラシー— ①	2	元村有希子、西山 湊 宮坂 知宏、吉森 保 小林 聡、末松 広行 山口 夕、末松 誠 金津 和美、佐々 義子 益田 勝吉、野口 範子 植木 朝子	秋2	
		051	// ⑤				
2～	11433522	001	サイエンス・ナウ8 —多様なサイエンスコミュニケーション— ①	2	元村有希子、美馬のゆり 春山 慶彦、吉野 敏弘 忽那 賢志、高橋真理子 荒木健太郎、榎 太一	春2	
		051	// ⑤				
2～	11433515		ビジネスワークショップ	2	野口 範子、元村有希子 浦野 泰臣、三田雄一郎	秋集中	
2～	11433516		メディカルワークショップ	2	池川 雅哉、野口 範子 山下 修司	秋集中	

ビジネスワークショップ
先行登録科目である。
詳細は『登録要領』を
参照。2017年度以降生
のみ登録できる。「サイ
エンス・ナウ3」を登録
中もしくは履修済みで
あること。春学期登録
期間時のみ登録可能。

メディカルワークショップ
先行登録である。詳細
は『登録要領』を参照。
2017年度以降生のみ登
録できる。「サイエン
ス・ナウ5」を登録中も
しくは履修済みである
こと。春学期登録期間
時のみ登録可能。

サイエンスコミュニケーター養成副専攻

科目群	登録コード		科目名 —サブタイトル— クラス	単位	担当者	期間 時間	履修条件など
	科目コード	クラスコード					
2～	11433520		取材・インタビュー実践講座	2	野口 範子、遠藤 正彦 元村有希子、別所 順平 榎 太一	春集中	取材・インタビュー実践講座 先行登録科目である。 詳細は『登録要領』を参 照。未知型探索ビジ ネスワークショップを セットで登録すること。 春学期登録期間時のみ 登録可能。講義日程の 詳細はシラバス参照の こと。
2～	11433521		未知型探索ビジネスワークショップ	2	野口 範子、遠藤 正彦 別所 順平、元村有希子 榎 太一	秋集中	未知型探索ビジネスワーク ショップ 先行登録科目である。 詳細は『登録要領』を参 照。取材・インタビュー 実践講座をセットで登 録すること。春学期登 録期間時のみ登録可能。 講義日程の詳細はシラ バス参照のこと。